

認知症の興奮にモンテッソーリ・ケアが有効

幼児教育法のひとつであるモンテッソーリ教育^{註)}と認知症ケアを組み合わせたモンテッソーリ・ケアは高齢者や認知症の介護に取り入れられており、西洋諸国では、興奮症状の治療に有用な非薬理的介入とされている。しかしながら、アジア人におけるモンテッソーリ・ケアの有効性についての研究はサンプル数が少なく一貫した結果が得られていないため、その信頼性には限界がある。本研究では、アジア人の認知症患者を対象に、認知症による興奮症状に対するモンテッソーリ・ケアの有効性についてメタ解析を実施し検討した。

データは Medline、Embase、Cochrane Library、ほか 3 つの中国のデータベースから前向きランダム化臨床試験を抽出し、計 460 例がメタ解析の対象となった。モンテッソーリ・ケアと標準ケアの有効性を比較するため、2 種の測定尺度 (CMAI、NOISE) を用い、加重平均差によりプール解析を行った。結果、モンテッソーリ・ケアによる興奮症状の平均差は標準ケアと比べ-3.86 となった。また、モンテッソーリ・ケアによる各症状の平均差は、身体的攻撃行動では-0.82($p<0.00001$)、身体的非攻撃行動は-0.81($p=0.07$)、言葉による攻撃行動 0.38($p=0.57$)となり、身体的攻撃行動による興奮症状を減少させる可能性が示された。

したがって、アジア人の認知症患者において、標準ケアを行った場合と比べ、モンテッソーリ・ケアを行うことで身体的攻撃行動による興奮症状を減少させることができる可能性が示唆された。一方、身体的非攻撃行動や言葉による攻撃行動に対しては有効性が認められなかった。

出典 : Medicine. 2022 Aug 12; 101(32): e29847.

註) モンテッソーリ教育

医師であり教育家であったマリア・モンテッソーリ博士が考案した教育法。子どもを観察することによって見出された事実に基づく科学的な教育法で、子どもには生来、自己教育力があり、これに基づき成長を促していくことによって自主性や積極性が育まれるとされている。